

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年10月31日

上場会社名 積水化成品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <https://www.sekisuikasei.com>
 代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）古林 育将
 問合せ先責任者 （役職名）取締役専務執行役員 （氏名）佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 コーポレート戦略本部長
 半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（証券会社アナリスト、機関投資家ファンドマネージャー向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	65,715	△4.8	780	888.2	208	—	△3,466	—
2025年3月期中間期	69,061	6.3	78	△76.7	△378	—	△371	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 △4,556百万円（－％） 2025年3月期中間期 △187百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△76.16	—
2025年3月期中間期	△8.19	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	123,945	45,156	35.8
2025年3月期	136,238	49,670	35.9

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 44,396百万円 2025年3月期 48,911百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	3.00	—	0.00	3.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	114,000	△16.8	2,350	266.5	1,600	—	0	0.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社 （社名）

除外 6社 （社名）Proseat GmbH & Co.KG、Proseat Sp. z o.o.、Proseat Mlada Boleslav s.r.o.、他3社

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	46,988,109株	2025年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	1,390,482株	2025年3月期	1,525,782株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	45,520,312株	2025年3月期中間期	45,411,756株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 中間配当に関する説明	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(セグメント情報等の注記)	11

1. 経営成績等の概況

（1）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における世界経済におきましては、依然としてウクライナおよび中東を巡る地政学的リスクが継続し、米国の関税政策強化による世界貿易への影響が顕在化するなど、経済活動全体に不確実性が残る状況が続いております。自動車産業では、米国市場での駆け込み需要が一巡し、反動による今後の販売減少が懸念されます。また国や各メーカーの電動化対応、地域戦略によって、好不調のばらつきが出ています。エレクトロニクス関連では、テレビ・モニター用途の駆け込み出荷や半導体関連の回復基調が寄与し、全体としては堅調に推移しました。

日本経済においては、賃金上昇に伴う個人消費の持ち直し、ソフトウェアなど好調な設備投資によりゆるやかな回復基調を示していますが、為替の円安傾向や物価高騰などにより、先行きの不透明感が続いています。また、企業活動における環境課題への対応は重要性を増しており、持続可能社会の実現に向けた一層の取組みが求められています。

発泡プラスチック業界では、食品容器関連の需要は物価上昇や猛暑などによる市況低迷の影響で伸び悩みましたが、環境を意識した食品容器等の製品は堅調に推移しました。工業関連の各種部材、梱包材は、自動車の販売不振に伴う減産影響により低調に推移しました。

このような経営環境のなか、当社グループは、本年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Going Beyond 2027～変革と完遂～」の基本方針に従い2つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでいます。

『収益力の強化』においては、2025年9月1日に、欧州子会社Proseatグループの株式譲渡を完了いたしました。下期以降はProseatグループの影響がほぼ解消されることにより、事業ポートフォリオの再構築を加速し、経営資源の選択と集中による収益力の強化に取り組んでまいります。

『経営基盤の強化』においては、資本コストを意識した経営を推進すべく低採算事業や保有資産の見直しを進めております。また「環境・社会課題解決に向けた取り組み」における持続可能な社会の実現に向けた活動の一環として、パートナー企業と連携し、生分解性発泡体「RETONA FOAM BIO」を用いた、使用・回収・再資源化の資源循環スキーム検証の開始や「大阪・関西万博」にて開催された体験型プログラム「ジュニアSDGsキャンプ」に参画し、省資源性・省エネルギー性・リサイクル性など発泡スチロールへの理解を広げる取り組みを推進しております。

売上面は、ヒューマンライフ分野において、食領域では漁獲量減少により水産用途が数量減も、食品容器用途における省資源素材など環境貢献製品の需要が堅調に推移し前年並となりました。住環境・エネルギー領域は都市開発工事に伴う需要を取り込み順調に推移しました。インダストリー分野においては、エレクトロニクス領域で「テクポリマー」の塗料用途、「テクノゲル」のゲルロールが伸長したものの、北東アジアを中心に液晶パネル搬送資材用途の需要は減少、モビリティ領域では、Proseatグループが欧州市場低迷の影響を受け、全体として前年を下回りました。

利益面においては、グローバルにおける労務費の高騰のほか、為替変動の影響を受けたものの、販売価格の適正化、原価低減や固定費の削減など収益改善に取り組み、前年を上回りました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高は657億1千5百万円（前年同期比4.8%の減少）、営業利益は7億8千万円（前年同期比888.2%の増加）、経常利益は2億8百万円（前年同期は3億7千8百万円の損失）、Proseatグループ株式譲渡に関する事業譲渡損を特別損失に計上、親会社株主に帰属する中間純損失は34億6千6百万円（前年同期は3億7千1百万円の損失）となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<ヒューマンライフ分野>

ヒューマンライフ分野の売上高は264億5千8百万円(前年同期比2.4%の増加)、セグメント利益は16億1千2百万円(前年同期比150.6%の増加)となりました。

食領域	「エスレンシート」 ・スーパー向け食品容器用途の出荷数量は前期並で推移。耐熱容器用途は猛暑などが影響し低調。 ・省資源素材などの環境貢献製品や納豆容器用途の出荷数量は好調。 ・即席麺用途の需要は回復傾向で出荷数量は好調。
	「エスレンビーズ」 ・農産用途は天候の影響を受けるも出荷数量は前期並みで推移。 ・水産用途は漁獲量減少から鮮魚向けは低調に推移。養殖向けも低調。 ・各地域の生協でリサイクル原料を使用したR N Wの採用が進む。
住環境・エネルギー領域	・建材関連資材は住宅着工の低迷で伸び悩むが、工事物件が堅調。 ・土木関連資材は軽量盛土工法、雨水貯留で工事物件の納入が重なり売上は前年を上回る。 ・下水道工事などで使用されているF J リングは物件獲得が進み好調。

※エスレンシート：発泡ポリスチレンシート

※エスレンビーズ：発泡性ポリスチレンビーズ

※R N W：環境負荷低減を目的としたリサイクル原料を使用した発泡ポリスチレン製品

※F J リング：下水道などの推進工事で使用される発泡ポリスチレン製のクッション材

<インダストリー分野>

インダストリー分野の売上高は392億5千7百万円(前年同期比9.2%の減少)、セグメント利益は5億8千2百万円(前年同期比32.4%の減少)となりました。

モビリティ領域	「自動車部材用途」 ・売上は、日本で新モデルの量産遅れがあるも、北米での好調や価格改定効果もあり、全体では好調に推移。 「部品梱包材用途」 ・売上は、南東アジア地域は需要回復傾向も、その他地域では需要が低迷し低調に推移。 「F R P部材ならびに関連資材」 ・売上は、トラック・バス向けが好調で、前年を大幅に上回る。 「Proseatグループ」 ・欧州市場の自動車生産台数が前年を下回り、低調。
エレクトロニクス領域	「ピオセラン」 ・液晶パネル搬送資材用途は、北東アジアで需要が減少し低調に推移。 「テクポリマー」 ・ライティング・塗料用途の需要は伸長、ディスプレイ用途も堅調に推移。
医療・健康領域	「テクノゲル」 ・ゲルロールの北東アジア向け輸出は好調。 ・医療センシング機能用途が好調。

※ピオセラン：ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体

※テクポリマー：ポリマー微粒子

※テクノゲル(S T -gel)：機能性高分子ゲル

※F R P部材：繊維強化プラスチック部材

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は1,239億4千5百万円(前連結会計年度末比122億9千2百万円の減少)となりました。資産の部では、主にProseatグループ譲渡による受取手形、売掛金及び契約資産の減少などで流動資産が113億6千9百万円減少しました。固定資産は投資有価証券の減少などにより9億2千3百万円減少しました。

負債の部では、短期借入金の減少などにより、流動負債は197億1千4百万円減少しました。一方、長期借入金の増加などにより、固定負債は119億3千6百万円増加しました。純資産は利益剰余金の減少などにより45億1千4百万円減少し、451億5千6百万円となりました。純資産から非支配株主持分を控除した自己資本は443億9千6百万円となり自己資本比率は35.8%となりました。

当中間連結会計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増減額の増加などにより前年同期に比べ1千1百万円増加し、15億5千3百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出の発生などにより、前年同期に比べ6億2千4百万円支出が増加し、30億3千万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金による収入の増加などにより前年同期に比べ26億6千1百万円支出が減少し、14億6千2百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて、1億4千8百万円増加し、92億7千7百万円となりました。

(3) 中間配当に関する説明

配当につきましては、従来から株主への利益還元を経営重要課題として位置付けておりますが、2025年5月9日付の2025年3月期 決算短信(連結)にて公表しましたとおり、誠に遺憾ながら、中間配当につきましては、無配とさせていただきます。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期連結業績予想は、2025年10月30日公表数値からの変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,587	9,285
受取手形、売掛金及び契約資産	26,174	21,227
電子記録債権	8,539	8,240
商品及び製品	8,700	7,948
仕掛品	1,496	402
原材料及び貯蔵品	5,153	3,642
その他	3,966	1,505
貸倒引当金	△26	△28
流動資産合計	63,592	52,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,727	13,556
機械装置及び運搬具(純額)	11,337	11,211
土地	21,113	20,688
その他(純額)	3,188	3,523
有形固定資産合計	49,367	48,979
無形固定資産		
その他	1,847	1,736
無形固定資産合計	1,847	1,736
投資その他の資産		
投資有価証券	12,579	11,973
退職給付に係る資産	7,154	7,206
その他	1,774	1,903
貸倒引当金	△77	△77
投資その他の資産合計	21,431	21,006
固定資産合計	72,646	71,722
資産合計	136,238	123,945

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,026	11,816
電子記録債務	7,848	7,156
短期借入金	22,429	10,214
未払法人税等	1,188	720
賞与引当金	1,116	1,125
役員賞与引当金	6	14
その他	8,223	6,074
流動負債合計	56,839	37,124
固定負債		
社債	7,000	7,000
長期借入金	9,649	24,872
退職給付に係る負債	4,174	3,972
製品補償引当金	57	57
その他	8,846	5,762
固定負債合計	29,728	41,664
負債合計	86,567	78,789
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,377	16,311
利益剰余金	10,270	6,803
自己株式	△1,230	△1,121
株主資本合計	41,950	38,527
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,520	6,129
土地再評価差額金	1,421	1,421
為替換算調整勘定	△926	△1,606
退職給付に係る調整累計額	△54	△75
その他の包括利益累計額合計	6,960	5,869
非支配株主持分	759	759
純資産合計	49,670	45,156
負債純資産合計	136,238	123,945

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	69,061	65,715
売上原価	55,844	51,718
売上総利益	13,216	13,997
販売費及び一般管理費	13,137	13,217
営業利益	78	780
営業外収益		
受取利息	15	16
受取配当金	211	217
その他	183	239
営業外収益合計	410	473
営業外費用		
支払利息	490	446
固定資産除売却損	33	65
為替差損	255	272
その他	88	260
営業外費用合計	868	1,045
経常利益又は経常損失(△)	△378	208
特別利益		
投資有価証券売却益	588	107
有形固定資産売却益	—	713
特別利益合計	588	820
特別損失		
減損損失	57	184
事業譲渡損	—	3,948
特別損失合計	57	4,132
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	151	△3,103
法人税等	521	361
中間純損失(△)	△369	△3,465
非支配株主に帰属する中間純利益	2	1
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△371	△3,466

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純損失(△)	△369	△3,465
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△158	△390
為替換算調整勘定	353	△679
退職給付に係る調整額	△13	△20
その他の包括利益合計	181	△1,091
中間包括利益	△187	△4,556
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△190	△4,557
非支配株主に係る中間包括利益	2	1

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	151	△3,103
減価償却費	2,991	2,543
減損損失	57	184
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4	0
受取利息及び受取配当金	△226	△234
支払利息	490	446
賞与引当金の増減額(△は減少)	△38	8
製品補償引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
退職給付に係る資産負債の増減額	△1	△142
事業譲渡損益(△は益)	—	3,948
投資有価証券売却損益(△は益)	△588	△107
固定資産除売却損益(△は益)	27	△650
売上債権の増減額(△は増加)	1,154	△364
棚卸資産の増減額(△は増加)	126	465
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,208	△175
その他	△533	△311
小計	2,397	2,508
利息及び配当金の受取額	226	234
利息の支払額	△434	△444
損害保険金の受取額	4	3
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△652	△748
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,542	1,553
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,834	△1,925
有形固定資産の売却による収入	17	1,252
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	663	144
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△2,850
貸付けによる支出	△3	△12
貸付金の回収による収入	9	2
その他	△256	361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,405	△3,030
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,271	△11,269
長期借入れによる収入	2,200	24,100
長期借入金の返済による支出	△3,714	△10,661
配当金の支払額	△453	△0
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△499	△705
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,198	1,462
現金及び現金同等物に係る換算差額	△66	162
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,128	148
現金及び現金同等物の期首残高	10,867	9,128
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,739	9,277

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当中間連結会計期間において、当社の連結子会社である Proseat Europe GmbHが保有するProseat GmbH & Co.KG、Proseat Sp. z o.o.、Proseat Mlada Boleslav s.r.o.、他3社の株式持分をポーランドのBrose Sitech Sp. z o.o.の子会社であるBrose Sitech Foam GmbHへ譲渡したため、連結範囲から除外しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	25,822	11,752	37,575	—	37,575
チェコ	—	6,754	6,754	—	6,754
ドイツ	—	6,170	6,170	—	6,170
その他欧州	—	8,983	8,983	—	8,983
アジア	14	7,121	7,136	—	7,136
その他	—	2,440	2,440	—	2,440
顧客との契約から生じる収益	25,836	43,224	69,061	—	69,061
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	25,836	43,224	69,061	—	69,061
セグメント間の内部売上高 又は振替高	194	104	299	△299	—
計	26,031	43,328	69,360	△299	69,061
セグメント利益	643	862	1,505	△1,884	△378

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△1,884百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,889百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライ エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
 フ分野—— これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
 分野—— テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
 ST-Elevat、これら成形加工品など

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結損益 計算書計上額 (注2)
	ヒューマンライフ 分野	インダストリー 分野	計		
売上高					
日本	26,427	11,244	37,672	—	37,672
チェコ	—	6,621	6,621	—	6,621
ドイツ	—	6,106	6,106	—	6,106
その他欧州	—	7,377	7,377	—	7,377
アジア	30	5,216	5,246	—	5,246
その他	—	2,690	2,690	—	2,690
顧客との契約から生じる収益	26,458	39,257	65,715	—	65,715
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	26,458	39,257	65,715	—	65,715
セグメント間の内部売上高 又は振替高	109	56	166	△166	—
計	26,567	39,314	65,882	△166	65,715
セグメント利益	1,612	582	2,194	△1,986	208

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△1,986百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,985百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・ヒューマンライフ分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、セルペット
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・インダストリー分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、
ST-Elevat、これら成形加工品など

4. 表示方法の変更

前中間連結会計期間において「その他欧州」に含めて表示しておりました「チェコ」は、前連結会計年度より連結損益計算書の売上高において重要性が増したため、独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前中間連結会計期間については、変更後の区分にて組み替えて表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。